

北区地域公共交通に関する意見交換会（会議概要）

1 開催日時

平成 29 年 5 月 23 日（火）午後 1 時 30 分～午後 2 時 10 分

2 会場

葛塚コミュニティセンター

3 出席者（敬称略）

【委員等】

新潟市消費者協会 豊栄支部長	山岸 洋子
はまなす「地域交通」研究会 座長	村山 和夫（欠席）
はまなす「地域交通」研究会 事務局長	阿部 元良（欠席）
島見町・太郎代地区バス運営委員会 会長	小熊 明彦
島見町・太郎代地区バス運営委員会 副会長	阿部 康夫
東港タクシー株式会社 専務	丸山 俊夫
アイ・ケアアライアンス株式会社 代表取締役	関塚 政行
新潟交通株式会社 乗合バス部長	村山 優樹
新潟交通観光バス株式会社 営業部長	山本 徹
新潟市ハイヤータクシー協会 専務理事	佐々木 紀彦（欠席）
新潟運輸支局 運輸企画専門官	廣井 和幸
新潟北警察署 交通課長	金塚 傑之
新潟市北区 建設課長	濱崎 憲夫
新潟市北区 北出張所長	田辺 信一
新潟市北区 副区長兼地域課長	佐々木 勇

【事務局】

新潟市北区 地域課長補佐	小林 伸
新潟市北区 企画係長	尾崎 利枝子
新潟市北区 企画係副主査	貝瀬 千里
新潟市北区 企画係主事	佐藤 真太郎

【傍聴者】

4 名

4 意見交換事項

○北区デマンド交通運行計画（変更）について

資料3 「北区・デマンド交通運行計画（変更）（案）について」

資料3-1 「【北区】デマンド交通運行計画（変更）（案）」

に基づき、事務局が説明した。

○北区デマンド交通運行計画（変更）について （意見・質疑応答）

・山岸委員

乗降場所というのは自宅まで迎えに来てくれるのか。

・事務局

従来と変わらず、自宅まで迎えに行く。

・山岸委員

自分が高齢者になってデマンド交通を利用する立場になることを考えると、将来にわたり継続して欲しい。また、高齢になって身体が不自由になる可能性を踏まえると、バス停（停留所）まで歩くよりも自宅まで迎えに来てくれるのはありがたい。

・事務局

バス停（停留所）の設置については様々な意見があり、今後の課題である。また、現行制度・新運行計画ともに自宅までの送迎が行われるもので、複数人乗車でも同様である。

・村山（優）委員

新運行計画では一日10便とあるが、現行では不定期運行とある。一日どれほどの運行があるのか。また、時刻表に出ている時間のように設定した理由を教えてください。

・事務局

昨年度実績で約14便運行していた。新運行計画では一日10便と設定し、これまで同様、予約がなければ運行しない。時刻表は、利用実績に基づいている。たとえば病院、買い物に行く利用者数や利用時刻等を考慮して設定した。

・関塚委員

運賃を値上げすることで乗合率を上げようとしているのか、時刻表を設定することで乗合率を上げようとしているのか、考え方を教えて欲しい。また、他エリアでは

集落で乗り方等の説明会が開かれているようだ。検討してはいかがか。

・事務局

乗合率を高めることが一番の問題で、従来は個人乗りタクシーの助成のような状況にあった。時刻表設定で利用が集約され乗合率が高まることを期待する。一人乗り運賃の値上げについては、乗合率を高めることと同時に、メーター平均値と照らし合わせた際の実情から、自己負担として半分は申し受けたいと考えている。また、利用者の大半が高齢者であることから、今後も説明に努めたい。

・山岸委員

予約期限を早めた理由を教えてください。

・事務局

地域住民およびタクシー事業者と検討を重ねて、予約期限を早めた。相乗りのマッチングや車両手配に余裕を持たせるためである。

・阿部（康）委員

時刻表が設定されているが、予約がなければ運行はされないのか。

・事務局

デマンド交通はニーズに合わせて運行するため、予約がなければ、その便は運行しない。また時刻表は一番遠方を起点としている。

・阿部（康）委員

新運行計画が成功すれば、停留所の固定化もあり得るのか。

・事務局

地域住民との相談や実績を見ていくことで検討していきたい。

・阿部（康）委員

収支率の目標値が低いがどういうことか。

・事務局

本市としては公共交通において、乗合いを重視している。デマンド交通は収支率が高くても乗合率が低くても、公共交通としての意味合いが薄れてしまうので、その点について検討を行ったものである。

・ 山岸委員

予約をキャンセルすることはできるのか。

・ 事務局

電話でキャンセルしてもらうことになるが、予約したならば可能な限り乗車して欲しい。またそのように周知する必要があると考えている。

・ 丸山委員

区バスも当初は公共交通として認識してもらうのに時間がかかった。特に高齢者の利用が多く、お手洗い等の要望により出発が遅れてしまうことがあった。時刻表設定は乗合率を高める効果はあると思う。だが「帰り」の時間を予約するのは、病院の診察等で時間が流動的であるため難しいのではないか。

・ 事務局

区バスはタクシー事業者が運行しており、公共交通として覚えてもらうには時間を要した。しかし、現在では公共交通としての認識はかなり住民の間で広がったと思う。

・ 阿部（康）委員

社会実験が始まって何年目か。また地域から乗降場所を固定して欲しいという要望はないのか。

・ 事務局

平成 24 年から始まり現在 6 年目だ。乗降場所の固定化等については、意見が分かれているところだ。高齢等のためバス停まで出向くのも難しいという声もある一方、行政の公平・平等なサービスという観点からすれば区バス等と同じ形態であるべきとの声もある。岡方・長浦地区（一部葛塚地区含む）の高齢化が進行しているという背景も踏まえ、今後の検討事項となると思う。